

健康増進センター広報誌『健康ワンダーランド』です。今回は“子宮筋腫”について取りあげてみました。

## 「子宮筋腫 について」

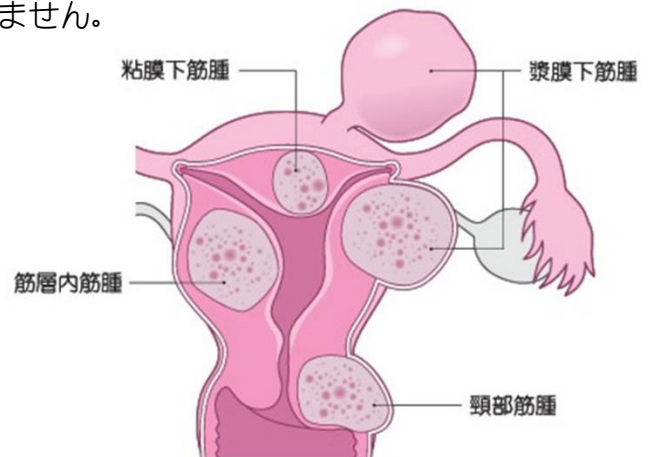
佐世保中央病院 健康増進センター 石丸 忠之  
長崎大学医学部 名誉教授



### ●はじめに

子宮筋腫は子宮筋層を構成する平滑筋に発生し、婦人科腫瘍の中では最も高頻度に見られる良性腫瘍です。30歳以上の婦人の20～30%、顕微鏡的小さな筋腫を含めると80%以上に見られるといわれています。筋腫は卵巣から分泌されるホルモン(とくにエストロゲン)によって発育が促されますので、有経婦人では増大する傾向にあり、閉経後は縮小していきます。しかし、閉経後も大きくなる傾向が見られた場合は悪性化(肉腫)を考えなければなりません。

発生する場所はそのほとんどが子宮体部(95%)であり、残りは子宮頸部(5%)から発生します。子宮体部の発生場所により、粘膜下筋腫(子宮内膜直下に発生し、子宮内腔に向けて発育)、筋層内筋腫(子宮筋層内に発生)および漿膜下筋腫(子宮漿膜直下に発生)に分類されます(図参照)。このうち筋層内筋腫(70%)が最も多く、次いで漿膜下筋腫(20%)、次いで粘膜下筋腫(10%)の順です。



図：子宮筋腫の発生部位

### ●診断

子宮筋腫の約半数は無症状で経過しますので、その発見には婦人科定期検診が必要です。また、下記に示すような症状を有する人は、子宮筋腫を疑い、婦人科専門医受診を勧めます。内診と超音波検査(とくに経膈超音波はCT検査より有用)でほぼ確実に診断できますが、なかには他の疾患(卵巣腫瘍など)との鑑別が必要な症例とか、子宮筋腫と子宮腔の位置関係や変性・壊死の有無などを知りたい症例に対してはMRI(磁気共鳴画像)検査が必要です。とくに閉経後に筋腫が増大し、子宮肉腫が疑われる症例に対してはMRIは役立ちます。

### ●症状

多くの筋腫は無症状です。代表的な症状として、月経困難症、月経異常(過多月経、過長月経)、下腹部膨満感、圧迫感、頻尿、便秘および不妊などが挙げられますが、これらの症状は筋腫の存在場所や大きさにより異なります。筋腫の発生場所と症状の関係については、次ページの表をご参照ください。

⇒ 次ページへ

表：子宮筋腫の部位と症状の関係

(日本産科婦人科学会編:産婦人科研修の必修知識)

	過多月経	月経困難症	圧迫症状	疼痛	不妊症
漿膜下	△	△	○	有茎筋腫の茎捻転	△
筋層内	○	△	○		△
粘膜下	◎	○	△	筋腫分娩時の陣痛様の痛み	◎

◎強くみられる    ○みられる    △みられることがある



治療については、主たる治療法として、薬物療法と手術療法があります。

### ●薬物療法

筋腫そのものに対する治療法ではなく、対症療法として月経痛に対しては鎮痛剤、過多月経に対しては造血剤や止血剤、漢方薬、ピル(しかし、長期投与は筋腫増大のリスクがあるので避ける)、さらに子宮内膜焼灼術などが使用されています。また過多月経や月経困難症に対しては黄体ホルモン放出子宮内システム(子宮内装着器具)が用いられることもあります。筋腫そのものに影響を及ぼす薬物療法としてはGnRHアゴニスト療法があります。これは一時的に閉経状態を作り、卵巢からのホルモン分泌を閉経期レベルまで減少させることにより、筋腫を縮小させる方法です(筋腫の消失は期待できません)。この注射(1カ月に1回、6回までの投与可、しかし、これ以上の投与は骨密度低下を引き起こすので、認められていません)により、3~4回投与で約40%の筋腫縮小がみられますが、それ以上投与しても、さらなる縮小効果は期待できません。この注射は筋腫核出術を容易にするための術前投与として用いるか、あるいは自然閉経に近い症例(更年期婦人で血中FSHが高い)に対し、短期間の閉経状態(偽閉経)を人工的に作り、自然閉経への移行を期待して用いられます。

### ●手術療法

子宮全摘術(妊孕能を温存する必要のない症例が適応)と子宮筋腫核出術(妊孕能温存の症例が適応)があります。そしてこれらの術式はアプローチの手法により、腹式(開腹)、膣式(子宮全摘術が対象)、内視鏡下手術(腹腔鏡下、子宮鏡下)に分けられます。このほか子宮動脈塞栓術やMRガイド下集束超音波治療法も行われていますが、術後合併症発生やその治療効果に問題があり、これらの方法が適応となる症例は限定されたものになります。以上の手術は通常は非妊娠時におこなわれるものですが、妊娠時の特殊な状態(有茎筋腫の茎捻転やその他の妊娠継続の障害になっている筋腫)においてのみ、筋腫核出術が行われることがあります(妊娠時の筋腫核出術は多量の出血を伴うので通常は行われません)。なお妊娠時に筋腫が存在していると1)筋腫の変性、感染、2)常位胎盤早期剥離、3)胎位、胎勢の異常、4)産道通過障害、5)微弱陣痛、6)弛緩性出血などのトラブルが発生する可能性がありますので、拳児希望の人で、比較的大きな筋腫や子宮口に近い場所に筋腫が存在する場合は、妊娠前の筋腫摘出をお勧めします。

## ◆ 『人間ドック健診施設機能評価』の認定更新が承認されました！

本年4月1日、佐世保中央病院健康増進センターは、日本人間ドック学会による健診施設機能評価の認定更新が承認されました。この人間ドック健診施設機能評価制度は、健診施設の質の改善を促進することで、受診者が安心して健診を受けられることを目的としたもので、これまでに全国で378施設が認定され（2019年4月時点）、長崎県内では当施設を含め3施設が認定されています。



当センターは、10年前に認定を受け、今回2度目の更新となりましたが、準備委員会を立ち上げ、スタッフが一丸となり、機能評価受審に向けて施設内の整備を進めてまいりました。本年1月25日に審査員による訪問審査を受け、ハード面 ソフト面、取り組みやサービスの質の高さなど、定められた基準をすべてクリアし正式に承認されました。今回受審したVer.4版では、「継続的な業務改善に取り組む体制」、「保健指導の実施体制」、「悪性疾患に関する検査のフォローアップ体制」について、「全国的に見ても優れた素晴らしい取り組みである」との高い評価をいただきました。

当センターが開院して約17年が経ちますが、おかげさまで、多くの皆さまにご利用いただくまでになりました。今後も、地域・職域の方々の疾病予防と健康づくり機関として、皆さまのお手伝いができると思っています。本認定を受け、受診者の皆さまに更に安心して満足していただける人間ドックおよび健康診断を提供させていただこうと職員一同気持ちを新たにしております。

今後とも、当健康増進センターをご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

評価の詳細内容はインターネットでご覧いただけます。

日本人間ドック学会：<https://www.ningen-dock.jp/list/func.php>



## ◆ 人間ドックラウンジの食事委託先が変わります！

2015年より、人間ドック専用ラウンジでの昼食提供サービスを運用していますが、本年4月より食事委託先が食事処「たけや」に変更になります。

このたびの変更に伴い、試作を重ね、野菜中心の健康的な内容で新たなメニューを協同考案いたしました。食事処「たけや」は市内天神町にある知る人ぞ知る創作料理の名店です。

利用者の皆様からは、特別な時間をいただきますので、健診施設と委託業者が協力し、満足と安心を提供できるサービスを目指して取り組んでいく所存です。

今後とも、引き続きご愛顧いただきますよう、宜しく願い申し上げます。



## 佐世保中央病院 健康増進センター 基本理念と基本方針

## 【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健康診断業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

## 健康増進センター 診察担当医

	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医： 非常勤医：	中尾・寺園・川内 元永・黒田・佐野			
午後診察	※ 毎日3～4名の医師が担当いたします				
婦人科検診	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

## 健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくか、お電話およびホームページからのご予約をお願い致します。



## ○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日（夏季） 12月30日～1月3日（年末年始）

## 【健康増進センター直通】

電話番号 (0956)33-5335 FAX番号(0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujujikai.or.jp

右のQRコードをご登録してアクセスいただければ  
当施設ホームページから人間ドックのご予約ができます。



## 編集後記

桜の花びらも散り、新緑の季節となつてまいりましたが、まだまだ日中の気温差がありますので、ご自身の健康管理にはご留意ください。今回は、子宮筋腫について、専門医師より報告させていただきました。当センターにおきましては、女性専用フロアを設け、婦人科疾患への予防と啓発に積極的に取り組んでおります。

健康ワンダーランドの次回発行は、本年7月を予定しています。どうぞご期待ください。

